

「祖師谷ポブラ歯科」 デジタル化の取り組み

① 歯科診療におけるデジタル化の現状

現在、歯科医療のデジタル化が進んできています。その歯科診療におけるデジタル化をデジタルデンティストリーと呼んでいます。

例えば、歯科治療では、患者様の口の中を診査し、歯を削り、型取りをし、歯型模型を作り、歯科技工士が詰め物や被せ物を作製しています。このような治療の流れをデジタル化することで、治療にかかる時間を大幅に短縮させることが出来るようになります。

当院では、このようなデジタルデンティストリー、つまり歯科診療におけるデジタル化を進めることによって、患者様が満足し、快適で効率の良い歯科治療を提供出来る様にしていきたいと考えております。そして、デジタル機器を導入する事により、他の歯科医院とは違った治療で、患者様に満足してもらえるのではないかと考えております。

② 当院におけるデジタル化のビジョン

当院では、歯科用CT（CBCT）を導入し、治療のデジタル化をし、診査・診断の精度を上げることが出来、治療の質と効率化を実現しております。また、モリタ社製のレセプトコンピュータを導入し、デジタル化をすることにより、診療報酬の請求を紙媒体での提出ではなく、電子データで行うことが可能です。そのことにより、作業の効率化が図れ、作業時間の短縮と資源の節約も出来ています。その結果、患者様への対応が迅速に行われ、さらに受付業務の軽減も図れています。

今後といたしましては、歯の型取りや被せ物の作製、また患部の画像をデジタル化し、治療時間の短縮、精度の向上を図り、患者様の満足度が向上する診療を提供していきたいと考えております。

③ 当院においてデジタル化を実現するための具体的な方策

当院では、患者様へ更に質の良い治療を提供するにあたり、「口腔内スキャナー」と「デジタルマイクロスコープ」を導入し、デジタル化の向上を高めていきます。

「口腔内スキャナー」は、今までの印象材（3分程度で硬化する粘土のようなもの）を用いた型取りではなく、歯列上をなぞるだけのわずかな時間で、型取りが行えます。そのため、今までの型取りをする際の不快感が大きく軽減されます。また、印象材や石膏など医療廃棄物を大幅に削減できるようになります。また、「デジタルマイクロスコープ」を使って、従来のアナログタイプのようにレンズを覗きこまず、自由な角度からお口の中を拡大撮影することが可能になり、そしてリアルタイムでの動画撮影が可能となりますので、診断・治療の質、精度が上がり、患者様の負担が減ります。

この「口腔内スキャナー」と「デジタルマイクロスコープ」を使って、高度な医療体制を作ります。

④ ③の方策を進めるための組織体制

これから、当院のデジタル化を円滑に進めるため、院長が最高情報責任者となり、準備をしていきます。導入機器にあたり、スタッフ全員で機器の使用方法を理解し、適正に使用できるようにしていきます。また、機器のメンテナンス、資材管理もスタッフ全員で行っていきます。そして、院長をはじめスタッフ全員でディスカッションし、当院での診療の質の向上としっかりとした組織体制の確立とを図っていきます。